

1 実現に向けて推進する戦略

戦略11 熊本都市圏の拠点性向上  
～将来の州都をめざします～

- ① 州都をめざした取組みの展開
- ② ハブ機能の強化

戦略12 悠久の宝の継承  
～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

- ① くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承
- ② くまもとの自然・景観の保全・継承

戦略13 環境を豊かに  
～環境意識と行動を高めていきます～

- ① 生活と自然の共生
- ② 県民一人ひとりの環境意識の醸成と環境活動の実践

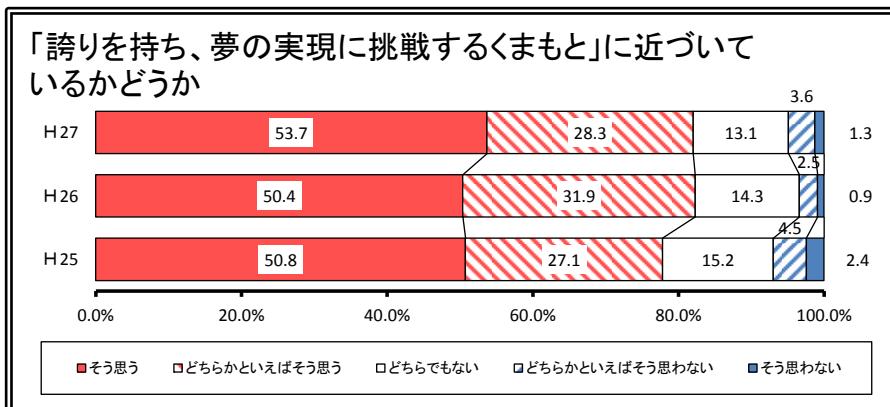
戦略14 熊本アカデミズム  
～「知」の集積を「地」の力につなげます～

- ① 世界からの知の集積
- ② グローバルな人材の育成

戦略15 夢を叶える教育  
～次代を担う人材を育てます～

- ① 夢を育む教育の推進
- ② 夢を広げる教育の展開

○県民アンケート結果



2 戦略指標の動向

※下表の「指標の動向」・「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度まで累計値で見ていく指標	↑	☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標	→	★

指標	戦略策定時(年度)	H27実績値	単位	指標の動向(策定時との比較)	目標値(H27年度)	種類	達成状況	備考
戦略11	① 県・熊本市の政策連携協定数(熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数)	—	15	項目	↑	毎年度着実に増加を図る	累計 ☆	
	阿蘇くまもと空港の利用者数	279万人/年(H23)	323	万人	→	300万人/年	単年 ★	
	② 熊本駅の乗降客数	893万人/年(推計値)	992	万人	→	920万人/年	単年 ★	H26実績値
	幹線道路の整備進捗率(供用率)	41.5%(H23)	52.4	%	↑	50.0%	累計 ☆	
戦略12	① 文化施設の利用者数	94.8万人/年(H23)	93.4	万人	→	100万人/年	単年	
	② 世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数	5か所(H23)	13	か所	↑	14か所	累計	
	③ 【補】松橋収蔵庫フィールドミュージアム事業における参加者数	1万人/年(H23)	4.8	万人	→	2万人/年	単年 ★	
	④ 【補】細川コレクション 永青文庫展示関係の入場者数	3万人/年(H23)	3.4	万人	→	4万人/年	単年	
	⑤ 熊本地域の地下水涵養増加量(白川中流域水田湛水事業等による涵養量)	2,065万m <sup>3</sup> (H23)	2,432	万m <sup>3</sup>	→	3,600万m <sup>3</sup>	単年	
	⑥ 【補】景観行政を行う市町村数	7市町村(H23)	16	市町村	↑	16市町村	累計 ☆	
	⑦ 【補】野焼き・輪地切りボランティア参加者数	2,137人/年(H22)	2,518	人	→	3,137人/年	単年	
戦略13	① 有明海・八代海の水質基準の達成度(COD)	72.2%(H22)	83.3	%	→	100%	単年	H26実績値
	有明海・八代海の水質基準の達成度(全窒素・全リン)	83.3%(H22)	83.3	%	→	100%	単年	H26実績値
	一般廃棄物排出量	57万9千トン/年(H21)	56.5	万トン/年	→	57万2千トン以下/年	単年 ★	H26実績値
	② 【補】熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員(団体)数<再掲>	304会員(H23)	601	会員	↑	600会員	累計 ☆	
【補】環境センターの来館者数及び出前講座の受講者数	157,372人/4年(H20~H23)	162,840	人	↑	164,000人/4年(H24~H27)	累計		
戦略14	① 研究開発部門の企業立地件数	9件/4年(H20~H23)	24	件	↑	10件/4年(H24~H27)	累計 ☆	
	海外高校への留学者数	10人/年(H23)	56	人	↑	100人/4年	累計	
	英語の学習が「好き」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.9%(H23)	50.3	%	→	毎年度、前年度の割合を上回る	単年	
	英語の学習が「分かる」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.4%(H23)	50.1	%	→		単年	
	留學生の数<再掲>	575人/年(H23)	735	人	→	1,000人以上/年	単年	H26実績値
戦略15	① 教科の学習が「好き」と回答した児童(小3)の割合	77.8%(H23)	75.9	%	→	毎年度、前年度の割合を上回る	単年	
	教科の学習が「分かる」と回答した児童(小3)の割合	83.4%(H23)	84.3	%	→		単年	
	【補】「親の学び」講座実施率	50.3%(H23)	77.4	%	→	70%	単年 ★	
	② 海外高校への留学者数<再掲>	10人/年(H23)	56	人	↑	100人/4年	累計	
ものづくりチャレンジ事業・高校生の就業支援等プロジェクトの受講児童・生徒数	1,432人/年(H23)	1,704	人	→	1,700人/年	単年 ★		

3 戦略の主な成果及び課題

【戦略11】熊本都市圏の拠点性向上～将来の州都をめざします～

主な成果	主な課題
------	------

※「主な成果」の実績値については、注釈がある場合を除き、戦略期間中の累計を記載。

「くまもと未来会議」の意見等に基づく州都構想の策定や、「道州制シンポジウム」招致による道州制や州都に関する周知啓発など、州都をめざした取組みを進めるとともに、首都圏への広報や移住定住人口の拡大に向けた「くまもと移住定住促進戦略」の策定等により熊本の魅力を打ち出した。

また、大空港構想を推進し、台湾高雄線及び香港線の定期便の就航のほか、空港ライナーの利用者増、崇城大学とエアライン等との協力協定締結等の成果が上がった。熊本駅では乗降客数が目標を達成したほか、万日山の都市公園供用開始、JR鹿児島本線の上り線全線約6kmと下り線北側約4kmの高架切替を行うなど、周辺を含めた整備が進展した。さらに、南九州西回り自動車道(芦北IC～津奈木IC間7.7km)や九州中央自動車道(嘉島JCT～小池高山IC間1.8km)の供用開始や、熊本港の物流機能の強化等によるコンテナ取扱量の過去最高更新など、九州におけるハブ機能の強化が図られた。

- 県・熊本市等が連携した拠点性を高める取組みを地域につなげていくことが必要。
- ヒト・モノの更なる交流を促進するため、熊本駅の利便性向上や、その周辺の鉄道高架化工事の着実な推進のほか、阿蘇くまもと空港の機能向上、熊本港の航路等の整備促進が必要。また、幹線道路ネットワークの早期整備に向け、国への働きかけが必要。



JR鹿児島本線高架切替

【戦略12】悠久の宝の継承～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～

万田坑、三角西港を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録が実現したほか、天草の崎津集落を含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」のイコモスによる現地調査への対応などを行った。また、「阿蘇の草原の維持と持続的農業」の世界農業遺産認定(H25年5月)に続き、人吉球磨の「相良700年が生んだ保守と進取の文化」が県内で初めて日本遺産に認定(H27年4月)された。このほか、鞠智城に関し、シンポジウム等を通じて知名度や歴史的価値の認知度の向上が進んだ。さらに、近代文学館が「くまもと文学・歴史館」としてリニューアルしたほか、県内62の博物館等と共同で企画展を開催するなど、熊本県総合博物館ネットワークが本格的にスタートした。

自然・景観の保全・継承に向け、地下水採取許可制度の浸透や、熊本地域における地下水保全の第二期行動計画の推進等により、地下水保全対策が進んだほか、イエロープロジェクト(延べ438haで実施)をはじめ里モンプロジェクト(508件)により美しい景観の保全等の取組みを展開した。

- 県内各地域の関係機関との連携を深め、「天草の崎津集落」、「阿蘇」の世界遺産登録や、日本遺産認定地域の魅力の発信等と新たな認定など、更なる歴史・文化資源の保存と活用が必要。
- 地下水涵養量の更なる増加を図るため、行政・くまもと地下水財団・事業者等各主体が協働して、水田湛水事業等を推進していくことが必要。



万田坑、三角西港を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録が実現

【戦略13】環境を豊かに～環境意識と行動を高めていきます～

生活と自然の共生に向け、環境再生や景観向上等に配慮した「みどりの創造プロジェクト」を24カ所で進めた。また、「水銀に関する水俣条約外交会議」(H25年10月に熊本市と水俣市で開催)では、140カ国・地域の関係者1,000人以上の参加の下、条約が採択され、知事が水銀フリー宣言を行うなど、国内外への情報発信を通して水俣病問題や環境復元の取組みに対する認知度や理解が高まった。

環境意識の醸成や環境活動の実践に向け、出前講座や親子向けPRイベント等の啓発活動を推進したほか、九州7県共同で「九州エコライフイベント制度」を実施、意識啓発を行った。また、廃棄物対策では公共関与最終処分場「IAくまもと」が稼働を開始した。

- 有明海・八代海の再生に向けて、有識者や地元の意見を踏まえた具体的対策の推進及び関係者によるネットワーク化が必要。
- より質の高い環境教育を進めるため、地域資源を活用するとともに、環境センターの拠点機能の強化が必要。



水銀に関する水俣条約外交会議

【戦略14】熊本アカデミズム～「知」の集積を「地」の力につなげます～

目標を大きく上回る研究開発部門24件の誘致、水銀専門家育成のための県立大学による留学生4名の受入、延べ31名の「くまもと未来会議」委員招へい等により、知の結集・集積を図った。

また、大学コンソーシアム熊本等との連携による留学生の支援、官民出資の世界チャレンジ支援基金を活用した若手芸術家(20人)、高校生(60人)の海外派遣、国のスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定校(済々黌高等学校)でのグローバル人材育成に向けたカリキュラムの開発に取り組むなど、海外との交流促進に向けた仕組みづくりが進展した。

- 研究開発部門等の誘致により招へいた人材の活用や、環境や地域再生分野の研究者の誘致に取り組む水俣市等への支援が必要。
- グローバル人材の育成に向け、海外進学における総合的な支援体制を更に充実させていくことが必要。



研究開発部門を中心とした企業誘致を推進

【戦略15】夢を叶える教育～次代を担う人材を育てます～

夢を育む教育に向け、教員のICT活用指導力を向上させるとともに、県立学校にスーパーティーチャーを配置して教員の指導力向上に取り組んだほか、小中学校に学級経営等支援員を派遣し、教育活動を支援した。また、いじめ・不登校対策として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを学校等に配置した。さらに、「くまもと家庭教育支援条例」を制定し、家庭教育の重要性への理解が向上した。加えて、ひとり親家庭等の子どもたちへの支援として、106カ所の「応援の塾」や、88カ所の「地域の学習教室」、34カ所の「地域未来塾」、228カ所の「地域の寺子屋」などの取組みが進んだ。

夢を拓げる教育に向け、熊本時習館海外チャレンジ塾を継続し、海外進学を総合的に支援したほか、ものづくりチャレンジ事業等の推進により受講児童・生徒数が増加し、目標を達成するなど、ものづくりへの理解が進んだ。

- 子どもたちの確かな学力や郷土を誇りに思う心を育むよう指導の充実を図るとともに、いじめ防止等に向け引き続き取り組むことが必要。
- 家庭の経済的状況などにかかわらず、子どもたちが安心して教育を受けられるよう、引き続き、学習支援等の充実・強化が必要。
- 若者の就労観・職業観を早期から醸成する施策の更なる推進が必要。



地域の寺子屋